

# 聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール  
聖母の小さな学校  
2023年4月10日発行  
1学期始業式号  
第257号

## さあ、新しい1年を始めよう！

春は爛漫として、私たちの心を躍動的にします。一方で又、新しい学期への不安も少し感じさせます。平素は、聖母の小さな学校の教育に格別のご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

本日、4月10日から新年度を始めます。昨年度、6名の生徒が学校復帰を含む社会的自立を遂げ、聖母を卒業しました。本年度は3名でのスタートとなります。本校は、家から出ることが難しい不登校の子どもたちの学びの場ですので、小さな体験学習等が一步出るきっかけになることをと願って、カリキュラムを組んでおります。不登校児童生徒が全国で24.4万人、今後も増え続けることでしょう。子どもたちは、大人と同様に、今の社会の中で様々な生きにくさを感じているのでしょうか。私たち大人が作っているこの社会が、あまりにも有能さと生産性と成功のみを求めているようになっていくことが、生きにくさの一つの原因であるかもしれません。成功した人だけでなく、少し失敗しても、弱くても、だれもが幸福で充実した生活ができる可能性を持っていることが示せるといいかもしれません。小中高の自殺者が512人にのぼっています。痛ましい限りです。今、どのような状態であっても、「君は幸福で充実した生活や学びを獲得する可能性を持っています！聖母は、それを保障します！」と、彼らの傍らにいたいと思います。

不登校の状態は一人ひとり違います。だから文部科学省も「一人ひとりにあった学び方を！」と言うのです。一人ひとり違うということは、一人ひとりの「成長の仕方が違う」と同じ意味です。かつて文部科学省は、不登校を成長の1段階と捉えよ、と言いました。人間の成長はその根底にあるものと深くつながっています。不登校もその人の奥深く、容易にはつかめないところから出ています。とてもナイーブなもので、教師が教育理念や常識や正しさを力にして解決できることではありません。生徒たちの歩みやそのやり方を丁寧に見、ゆっくりでもそれに添うた教育をしていくことが大切であると考えています。安心して学びの日々を続けて欲しいと思います。聖母の小さな学校は、「広報まいづる」(2018年2月号)で次のように紹介されています。

- ① 不登校の子どもたちが安心して学べる学校外の学びの場です。
- ② 少人数(定員10名)の学校です。
- ③ 主に中・高校生から20歳位までの生徒が在籍し、進学や就職を目指して学んでいます。
- ④ 「聖母の小さな学校」への登校は、原籍校の出席扱いになります。
- ⑤ 「聖母の小さな学校」での学びは、原籍校での学習評価の対象になります(通知表に記載)。

どうぞ、安心してここで学びを続けてください。共に良い1年にしたいと思います。

### <今年度お世話になる先生方>

- ・華道教室：山中 知昌 先生      数学：江宮 文夫 先生      ウズベキスタン文化：アシルベク先生
- ・陶芸教室：高井 晴美 先生      音楽(ギター)：北浦 弘治 先生
- ・体 育：渡邊 弘 先生      社会：山下 正 先生      校外学習：大久保 喜基 先生 他

### <今月の主な行事>

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 13日(木)・27日(木) 陶芸教室     | 21日(金) 月例保護者会 19:00~ |
| 18日(火)・25(火) ウズベキスタン文化 | 26日(水) ギター教室(北浦先生)   |
| 19日(水) 体育(渡邊先生)        |                      |

※ 教員研修は、5月から実施いたします。